平成 31 年度使用高等学校
（第 1 部）
教科書編集趣意書

芸術（書道Ⅱ）編

目 次

ページ

006　教図 書 Ⅱ 1

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教　科　書　名
6 教図	書Ⅱ　302	書 Ⅱ 著作者　關　正人　澤田雅弘　土橋靖子 辻元大雲　名児耶明　他11名

●編集の基本方針

学習指導要領に示された「目標」「内容」及び「内容の取り扱い」に基づき，書道Ⅰの学習を基礎にして,生徒が芸術としての「書」の学習に,意欲的･主体的に取り組めるよう配慮し編集しました。

書の魅力を伝えるのに最適な判型を工夫

書に対する感性を磨き，臨書や鑑賞の力を養うために，判型を見直すところから編集作業を始めました。書の美を理解するための根幹となる古典図版を美しく見せるためには，紙面に適度な余白とゆとりを持たせることが必要です。そこで，現行本の縦 A4× 横 B5 寸法の横幅を 1 ㎝だけのばして，図版以外の部分にゆとりを持たせ，原寸大の拓本や肉筆，紙の繊維まで見える拡大図版の迫力を存分に味わえるよう配慮しました。

●編集上特に配慮した事項

①基礎・基本の重視

高校現場の実態に即した教科書となるよう，基礎･基本を重視し，各領域とも内容を精選しました。

特に，篆書・隷書・草書・篆刻・刻字の学習については，学習内容の確実な定着を図ることをねらいに，書道Ⅱにおいても，書道Ⅰで取り上げている各単元の基礎・基本的な内容を，改めて丁寧に掲載しました。

②感性を刺激し，主体的な学びを引き出す工夫

書の技法の習得や知識の理解に偏重することのないよう，生徒の感性を刺激し，主体的な学びを引き出す工夫をしています。「参考にしよう」「覚えよう」「話し合おう」「やってみよう」の囲みがその一つで，学習内容にメリハリをもたせるとともに，現場の実態を考慮し，生徒が自ら選択して学習できるよう配慮しました。さらに，鮮明で美しい図版を多数掲載することで，鑑賞への意欲を喚起し，芸術への興味・関心が高められるよう配慮しています。

③自己の意図を持って表現する「漢字仮名交じりの書」の学習

「漢字の書」･「仮名の書」の内容を踏まえ,新たな表現を求める領域として「漢字仮名交じりの書」領域を設定しました。学習の柱は，思いをことばにし，書で表現することで，表現の構想から作品の完成までを，自主的・意欲的に進めていけるよう配慮しました。

④書の伝統と文化の理解による，日本人としてのアイデンティティの認識

自然との関わりの中で,「書」を文化として育んできた日本人の美意識や，実用と芸術の両面で発展してきた日本と中国の文字文化の歴史について，深く理解できるよう配慮しました。

また，伝統をふまえ，そこからさらに新たなものを創り出すことこそが芸術活動であることを理解するとともに，その活動自体が，生きる喜びにもつながることを実感できるように配慮しました。

④鑑賞学習への配慮

書の学習では，表現と鑑賞は表裏一体であると考えるのが一般的であるため，掲載する全ての古典図版が，臨書や鑑賞の対象となります。ただ，学校によっては，表現の学習を行う時間を確保するのが難しい場合があるため，表現活動を伴わない鑑賞だけの学習を取り入れることで，書に触れる機会をできるだけ増やそうという取組みが始まっています。そこで本書では，「みる・くらべる・はなす」という鑑賞に特化したページを設けることで，知識理解に偏重した鑑賞学習ではなく，作品を純粋に「みる」行為から始める学習を展開し，鑑賞の基礎を養うことができるよう配慮しました。それぞれを，「みる」＝直感的鑑賞，「くらべる」＝分析的鑑賞，「はなす」＝総括的鑑賞と位置づけ，「みる」・「くらべる」ことによって生徒個々の鑑賞能力を高めるだけでなく，「はなす」ことによって，言語活動の充実を図り，他者の理解や自己の変容・成長を実感できる授業展開が期待できます。また，美術館・博物館へ出かけることが難しい場合も考えられるため，学校の教室で充実した鑑賞学習ができるよう，作者や作品の書かれた背景について紹介した資料，作品の特徴を理解するために有益な書論などを交え，楽しく学べる工夫をしました。

⑤主体的・意欲的な学習のためのコラムと囲み

日本文化史において大変重要な人物である「歌人　藤原定家」を，コラム「書と人」で取り上げました。また，学習を進める中で，生徒が興味・関心を抱きやすい内容に対し，知識を深めることができる資料を「参考にしよう」・「やってみよう」として盛り込みました。さらには，学習内容の確実な定着や，問題解決能力育成のため，随所に「覚えよう」・「話し合おう」を設けました。

⑥著作権と書作品の関係をわかりやすく解説

社会の情報化，国際化が急速に進展する中で，さまざまな分野において著作権に関する関心が高まっています。書道の場合も，展覧会への出品やパフォーマンスの披露など，自身の制作したものが著作物であると同時に，「著作権が存続している著作物」を題材とした書作品を制作する場合は多く，学校現場においてもその指導は急務となっています。そこで，著作権・著作物とは何かといった基本的な事項から，他者の著作物を利用して書作品を制作する場合にどのような配慮が必要なのかなど，書作品と著作権の関係について，わかりやすく解説しました。

⑦書道史が概観できる導入「書と文化」・巻末年表と，古典教材の地理的理解を深めるカラー地図

解説による個々の古典の理解に加え，書道史上での古典の位置付けや，日本と中国の書文化の交流史を概観できるような領域「書と文化」と，年表を付しました。また，地図には，古典の現在の収蔵・保管場所や，現存しないものについてはその関連の場所を，掲載ページを添えて引き出し線で見やすく表示し，本文ページとの関連づけに配慮しました。さらに，現地の写真も織りまぜ，臨場感を味わえるよう工夫しました。